

記者発表資料

みんなでタイムラインプロジェクトを始動

～ 住民一人ひとりがそれぞれの環境に合ったタイムラインを検討 ～

市町、県、国で構成する鬼怒川・小貝川下流域大規模氾濫に関する減災対策協議会では、逃げ遅れゼロに向けた迅速かつ的確な避難行動のため、「みんなでタイムラインプロジェクト」を始動します。

今回は、その先駆的な取り組みとして常総市にモデル地区を選定し、住民一人ひとりが自分自身に合った避難に必要な情報・判断・行動を把握し、いわば「**自分の逃げ方**」を手に入れることを目的として、市役所のサポートの下で住民一人ひとりがそれぞれの環境に合った**マイ・タイムライン**（別紙1参照）を自ら検討する「**マイ・タイムライン検討会**」（別紙2参照）を設置します。

1. モデル地区（自治区）

常総市若宮戸地区、根新田地区

2. 検討会メンバー

- ・対象自治区の住民
- ・行政機関

常総市、常総警察署、茨城西南地方広域市町村圏事務組合消防本部下妻消防署石下分署、常総地方広域市町村圏事務組合消防本部水海道消防署、茨城県、気象庁水戸地方气象台、国土交通省関東地方整備局下館河川事務所

- ・学識者

川島宏一 筑波大学システム情報系社会工学域 教授

伊藤哲司 茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科 教授
 （地球変動適応科学研究機関 機関長）

白川直樹 筑波大学院システム情報系構造エネルギー工学域 准教授

3. 検討会開催予定

11月に第1回マイ・タイムライン検討会を開催予定

発表記者クラブ

竹芝記者クラブ、神奈川建設記者会、茨城県政記者クラブ、
 栃木県政記者クラブ、筑西市記者クラブ、宇都宮市政記者クラブ、取手記者会
 筑波研究学園都市記者会、龍ヶ崎記者会、つくば市記者会

問い合わせ先

常総市 市民生活部 安全安心課

斎藤課長、溝上危機管理監（TEL：0297-23-2111）

国土交通省 関東地方整備局 下館河川事務所

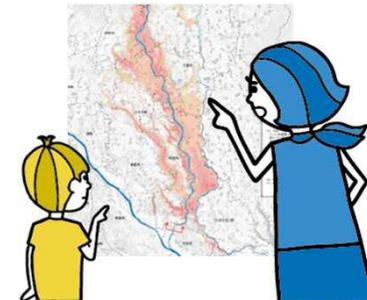
須藤副所長（TEL：0296-25-2161）、伊藤調査課長（TEL：0296-25-2171）

一人ひとりのマイ・タイムライン(イメージ)

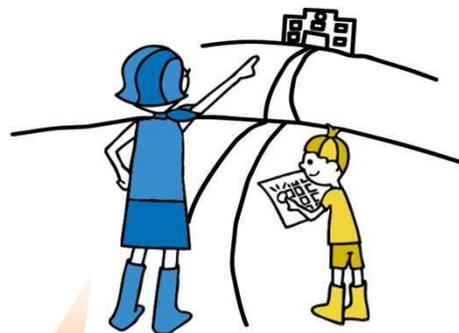


マイ・タイムラインの検討の過程で…

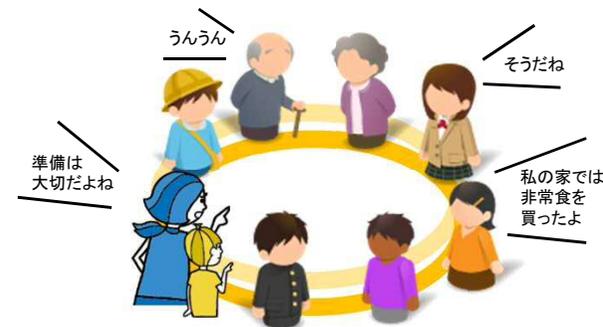
- ❗ リスクを認識できる
 - ・自分の家が浸水してしまう
 - ・避難所まで遠い など



- ❗ 逃げるタイミングがわかる
 - ・いつ逃げる?
 - ・誰と逃げる?
 - ・危険な場所をよけて逃げるには?



- ❗ コミュニケーションの輪が広がる
 - ・検討会での意見交換などで、知り合いになれる
 - ・ご近所とのつながりが強く、太くなる



マイ・タイムラインができると…

- ❗ 災害時の防災行動チェックリストで対応の漏れを防止
- ❗ 災害時の判断をサポート

逃げ遅れゼロ

モデル地区の住民、常総市、警察署、消防署、茨城県、気象庁、国土交通省下館河川事務所に加え、各分野の学識者で構成される『マイ・タイムライン検討会』を設置し、住民一人ひとりがそれぞれの環境に合ったタイムラインを自ら検討する取り組みを進めます。

検討会の進め方

ステップ1 自分たちの住んでいる地区の洪水リスクを知る

- ・過去の洪水を知る
- ・地形の特徴を知る
- ・水害リスクを知る



自分達の住んでいる地区が浸水するかを知りましょう。

ステップ2 洪水時に得られる情報を知り、タイムラインの考え方を知る

- ・洪水時に得られる情報とその読み解き方を知る
- ・タイムラインの考え方を知る
- ・洪水時の自らの行動を想定



いつ逃げはじめたらいいのかなあ？

ステップ3 マイ・タイムラインの作成

- ・一人ひとりのタイムラインを作成



住民一人ひとりが
自分自身の行動を記入



これで、逃げる
タイミングが
わかったわ！

モデル地区

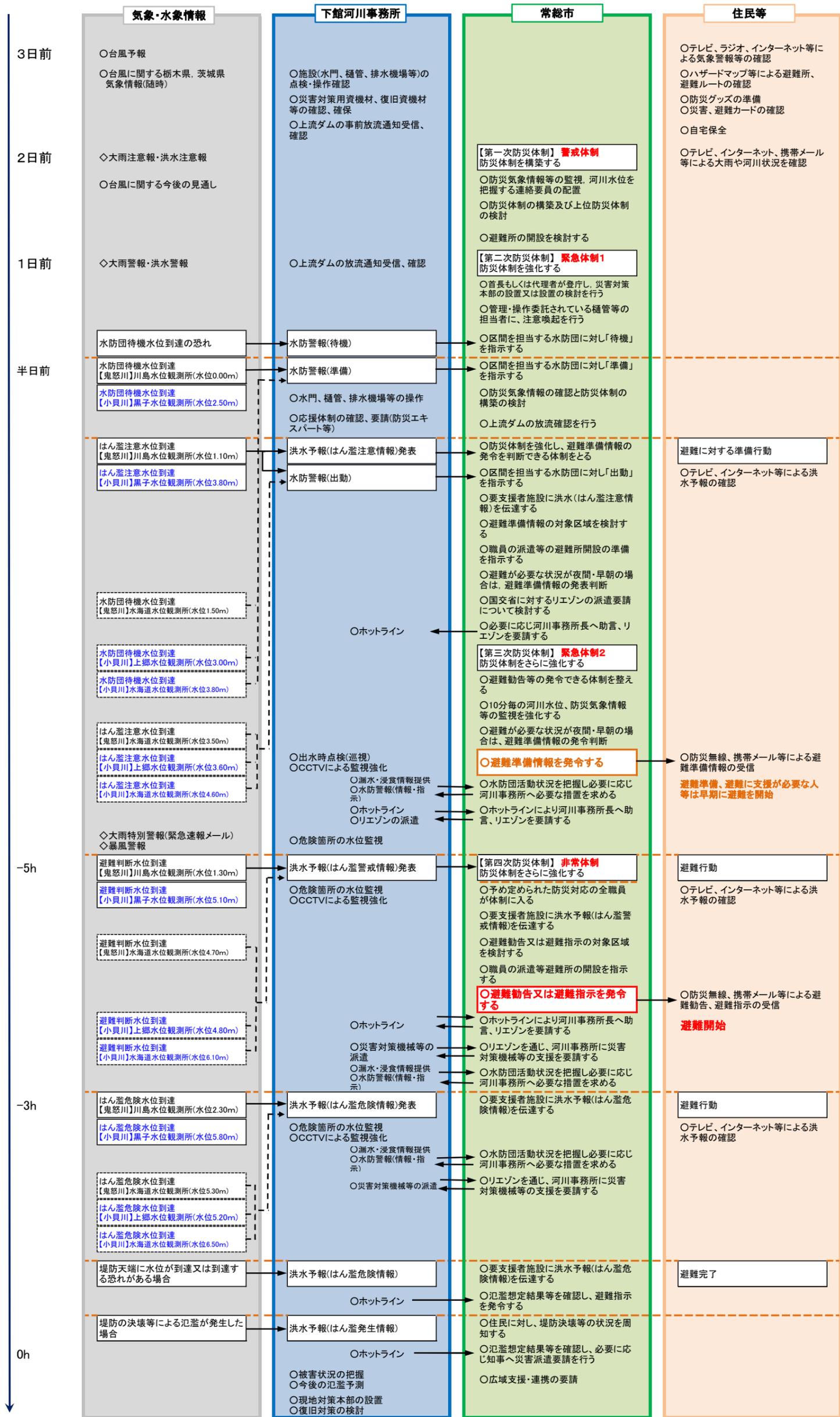
今年度は、**若宮戸地区**、**根新田地区**をモデル地区として、検討会を進めます。



学識者

- ・筑波大学システム情報系社会工学域
川島宏一 教授
- ・茨城大学人文学部人文コミュニケーション学科
地球変動適応科学研究機関
伊藤哲司 教授・機関長
- ・筑波大学院システム情報系構造エネルギー工学域
白川直樹 准教授

台風による洪水を対象とした避難勧告発令等に着目したタイムライン(防災行動計画)(H28年6月版)
常総市(鬼怒川・小貝川)



※今後の出水や訓練等を通じて見直しを行っていく